

平成 29 年度 保育園・学校課題検討委員会（第 4 回）会議録概要

1 開催日時 平成 29 年 11 月 15 日（水） 午後 6：30～8：00

2 場 所 飯山市役所 4 階 全員協議会室

3 会議の経過及び発言

1 開 会 (事務局)

ただいまから、第 4 回の保育園学校課題検討委員会を開催します。

2 教育長挨拶

みなさん改めて、こんばんは。この会議も 4 回目を迎えまして、いよいよ本題の入り口と言いますか、ある程度の方向性を示さなければならない段階に来ております。

飯山市の教育と言うのは、小中学校に関しては教育大綱と言うのがありまして、それが大きな方向性を示しております。教育大綱を作成した大きな契機は、日本の教育が大きく変わろうとしている。それに対応しながら飯山市の教育を考えようということで決められております。

教育関係の皆様が多いのですが、もう一度、共通認識として日本の教育が大きく変わろうとしているということを認識していただきたいと思っております。

特に 2020 年度から、明治の学制改革以来の大きな改革が始まろうとしております。

これまでの日本の教育改革と言うと学習指導要領の改訂でしたが、日本の教育改革として、国の中に、これまでどおりではいけないという認識が強くあり、教育委員会制度改革がスタートされ、教育長のあり方も含め教育委員会制度が大きく変わる事となりました。そのなかで総合教育会議という組織ができあがり、地方自治体の教育の方向性が変わる事となりました。

なぜ日本が教育改革をしなければいけないと考えるようになったかという背景には、世界が大きく変わってきているということだと認識しております。

その一つが人工知能 AI の発達により、今まで人間が行ってきた仕事が AI によって代わろうとしていることだと思います。

その一つの表れが、100 人がいたら 100 人が 1 つの正解を求めるような正解主義。早く、より正確な答えをスピーディに出すという教育が求められて、またそれに応えて、日本の産業というのは発展してきたと言われております。

端的な例が、大学入試センターでマークシート方式により、5 つの選択肢の中から、

より早く正確な解答を導き出す、そういう人材・学校教育がなされてきましたが、それではこれからの時代、やっていけなくなるのではないかという認識が日本の中にできまして、答えのない問題を解く。ということは、新しい課題に向かったときに、いろんな人間が意見を出し合い、意見を闘い合わせて、そこから解決していく。そうした人間を作り出さなければいけない、という大きな背景があると思います。

もっと端的に言わせていただきますと、普通高校はどこへ行っても、同じようなカリキュラム、システムで行われていた。

しかし、それでは将来の日本を牽引するような人材を育てられないということで、学校にランクをつけたのが、グローバルハイスクールの認定を受けた長野高や上田高、あるいはスーパーサイエンスハイスクールの認定を受けた飯山高校です。

そうしたことを、徹底して行っているのが東京都で、超進学校、進学推進校、進学強化校、というようにランクを分けて、予算配分もそれに合わせ、まったくフリーダムにそれぞれを切磋琢磨させている。それが大きな流れになっておりまして、その一つの表れが、文部科学省が全面的に打ち出している新しい学習指導要領の中のアクティブラーニングという教育システムです。

このような話をしましたのは、今、保育園に通っている子どもたちは、高校・大学進学の際に全く新しいシステムの中でやっていかなければならない事態になっているということです。

その前兆が、大学入試問題や長野県の高校入試にも表れております。

一昨年の有名大学の入試問題に「地球が今と反対の自転で回るようなことになったら、世の中がどう変わるか。」というような、正解が1つではない問題が出されています。

と言うことは、今、保育園にいる子どもたちが全く新しい時代に対応して生きていかなければいけない、そういう時代にきていると強く思っております。

特にその中でも、新しい課題に対峙した時に、どう対応していくか、あるいは自分の考え方をどう発表していくか、あるいは自分と意見の異なる人とどう付き合っていくか、そういう問題が強く求められています。

それを飯山市の保育園に視点を変えてみた場合、今の飯山市の保育園の環境でいいのだろうかということ、もっと視点を変えますと、今の保育園があるべく環境にあるのかどうか、ということです。

あきは保育園に年長児がひとりもないという驚くべき事実。そのような中で3年あるいは5年間保育をして、本当に、発達段階に応じたあるべき子どもの伸びしろを最高に伸ばせるような保育ができるのだろうかという、大きな疑問といいますか、このままでいいのか、という素朴な思いがありました。

だったら、少しでも飯山市の保育園児がよりよい環境の中で、一番の保育を受けて、それが小中高へつながるようにしてやらなければいけないのではないか、という強い思いです。「では、どうしたらよいか」と考えた時に、旧町内には保育園が3つございます。

その3園が、それぞれに人口減少など多様な問題を抱えているわけです。

それを、子どもたちの発達がよりレベルの高いところへ行けるように解決してやらなければいけないのではないかと、それが今の私たちの使命ではないかと思いました。

そこで、この課題検討委員会を立ち上げて、皆さんに率直に、ご意見をお聞きしながら、今、年長児がいない保育園での保育が本当によい環境なのかどうか、解決する方法はないだろうかというところまで話が来ている訳ですが、皆さんのご意見をお聞きしながら、現在、保育園に通う子どもたちが少しでもよりよい保育環境となるよう、物的にも人的環境でも、二つの側面から考えていかなければいけないと思っております。

もう一つは、率直に申し上げて、子どもが多様化していると同時に、家庭が非常に複雑化、特に私たち年代から見ると、親の力が弱体化していると思います。

親が、どこかで学ぶ場をしっかりと設定しなければいけないのではないかと考えた場合、やはりある程度人数が大勢の保育園で、いろいろな保護者と、いろいろな子どもと接する中で、親自身も学びながら、自分の子どもが将来どうしたらよいのかというところへ繋がるのではないかと考えました。

多様な考え方があると思いますが、私自身、飯山の子どもが外へ出ていったときに、ハンディにならないような力をつけてやりたいな、という思いです。

今のままでも保育は大丈夫だと思いますが、外へ出ていったときに、いろいろな形で、まだまだ十分ではない部分が子どもたちの肩にかぶさっているのではないかと強く思っています。

子どもたちを保育園時代からよりよく育てたいというのが、私の願いでございます。勝手なことを申し上げましたが、ぜひ意のあるところをお汲みいただき、みなさんのご意見を、これからの検討委員会の大きな方向性を定める上で、お力添えをいただければ、ありがたいと思っております。以上でございます。

(事務局)

続きまして服部委員長から一言お願いします。

3 委員長挨拶

皆さん、こんばんは。お仕事でお疲れのところ参集いただきまして、誠にありがとうございます。過去三回、現状について教えていただき、また保育園を視察してまいりました。今、教育長から「将来を担う保育園児に、よりよい環境を」ということでお話を頂いたわけですが、前回、委員の方々からご意見いただきまして、そろそろ案を提示してはどうかとのご意見がございましたので、それについて本日は事務局からたたき台を提示していただきますので、委員の皆さまに多くのご意見・提案をいただければと思っております。審議の程よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは早速ではありますが、議事に入ります。

議事につきましては委員長に進行をお願いいたします。

4 議 事

(1) 飯山市保育園の今後のあり方について

(事務局)

本日、たたき台としまして、市の今後のあり方についての考え方として、資料をお配りしております。

～資料説明～

○飯山市保育園の現状

○飯山市保育園の課題

○飯山市の子どもたちにとっての望ましい保育環境

- ・望ましいクラス分け、園児数

- ・適正配置

- ・施設整備

○具体的な方向性

(委員長)

4 ページについて、ご説明いただけますか。

(A 委員)

ご覧いただいている資料のとおりですが、説明を加えるとすれば混合保育の3歳以上児の中では、デメリットとして「年齢にあった活動」と言う面においては「1人1人の発達にあった活動」が経験しにくいということです。

未満児の混合保育においても、デメリットとして「生活リズムの保障」とありますが、例えば、寝ている子がいる傍で走る子がいる、食事時間も0歳児に近い子ほど、その子に合った食事時間の提供が望ましいが、それができないというようなことです。

メリットがあつて、それがデメリットになるということが多いのですが、3歳以上児における少人数クラスでは、3歳児は待つことが苦手なのですが、少人数の為に待たなくていい反面、「待つ」という体験が少なく「我慢が育ちにくい」という面があります。

また、少人数のために、大人数の行事等集まりへの苦手意識もあるようです。

少人数の園児ということは、少人数の保護者と言うことでもあり、保護者同士の情報交換も、人数が少ないため交換する情報も少ないということも捕捉させていただきます。

(委員長)

ありがとうございました。

事務局からの提案と、保育園現場からみたメリット・デメリットについて説明を頂いたわけですが、委員の皆様からの率直なご意見、ご質問をお聞きしたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。

(B委員)

資料をみせていただいて、推計とはいえ数字をみて、著しい減少傾向に驚いております。このままでは小学校すら一クラスになるのではないかと思います。また、統合に向いて動いているようで、今後、統合される園の園児と保護者だけが、大きな負担を強いられるような感じがしております。今年度、入園した保護者については、卒園もこの園でと考えている保護者がいるのではないかと思います。

A園の大規模改修の時には、統合を見据えていたのかどうかお聞きしたいと思います。また、この会議には保護者会長として出ているが、ぜひ保護者が納得できるまで保育園へ説明にきてほしいなと思います。

(C委員)

課題が多すぎて、どう進めていけばいいのだろうと個人的に悩んでいましたが、まとめていただいて、わかりやすくなったと思います。子どもの数の推計には驚いていますが、減少だけでなく増えるような施策を市でも考えていただけたらと思っています。

統合に関しては「子どもたちによりよい環境を」という面では、子どもたちにメリットがあるようにしてほしいし、デメリットについては対応をしっかりしてほしいと思います。親としては、子どもたちが切ない思いをすることで成長する部分もあると思うが、悲しい思いをするようなことがないようにと望みます。また、この場だけでなく、保護者の前で説明いただき、意見を聞いていただけたらと思います。

(D委員)

資料を見せていただいて、知らないことも多く、驚くことも多かったのですが、園舎の耐震性の面ですとか、建設からかなり経っていますので、セキュリティ対策について気にはなっています。統合を視野にと言うことですが、セキュリティの面ではしっかり考えていただきたいと思っております。

(委員長)

12月には中間的な提言を、この委員会でお出しする予定で進めております。

事務局の案が示されましたが、検討委員会全体の方向として、この方向で進めてよいのかどうか、皆さんの意見をお願いします。

(E 委員)

委員として個人的な考えですが、今は飯山地区だけの話で、保育園の保護者会長さんたちとしては、大変な立場だということは感じるのですが、最初の会議での「未来を創るのは子ども達であることを考えて検討していきたい」という教育長の話を思うと、偶然かもしれませんが、資料の「3歳以上児における少人数クラスのメリット・デメリット」にある、デメリットとしての「我慢や協調性が育てにくい」というのは、子どもの立場でのデメリットで、メリットとしての「きめ細かい配慮」「保護者とのコミュニケーション」は、どちらかというと保護者や保育士にとってのメリットのようにも受け取れます。そう考えると、この資料からだけではなく、全体を考えなければいけないことだとは思いますが、子どもたちにとってよい環境をと考えた時には、今後、村部や小学校にも及ぶ話かと思いますし、人数の適正を考えるのは難しい話ですが、デメリットに着目しなければいけないのではないかなと思いました。

(F 委員)

確認をお願いします。2 ページ目に「規模的には保育園 1 園が適正となる状況。」「しかし飯山地区での現保育園での実施は難しい状況である。」「当面の対応として」ということは「いずれは 1 園化を目指しての当面の対応として、公立保育園の統合」と考えて良いのかどうか。

(委員長)

私はそのように考えておりましたが。

(事務局)

そのとおりです。いずれは飯山地区だけでなく、他の地区も含めて、このままでいいのかという状況にはなってくるかと考えております。

(G 委員)

スケジュールについて確認をお願いします。

第 1 回目の会議資料にスケジュールが示されており、議会等という中間報告等とありますが、本日の内容がそのまま出ていくのか、それとも具体的なことを出さずに「このようなことを検討しています」という内容なのか。というのは、スケジュールの中に保育園課題対応ということで、保育園関係者への対応を並行してやっていくのかと思ったので、議会はいわゆる一般市民への皆さんへと言うメッセージの意味がある中で、議会への中間報告がどのようなレベルのものなのか気になりました。

それと本日の資料について、現状・課題がありつつ、先ほど冒頭で教育長が話されたような、これからの社会に対して、飯山の子ども達の保育園の時から育て方、教育の

考え方が1つありつつ、望ましい保育環境という項目に入っていた方が、なにかストンとくるものがあるのではないかと思ったところです。

(委員長)

表現の仕方と言うことですか。

(G委員)

そうですね。これまでの会議で議論されたこととか、保護者の切実なる考えを踏まえますと、これからの子どもたちにはこうあるべきだというようなことがあるといいなと思いました。

それから具体的に概ね3年以内、当面、10年後、全市的な、と言うような話がありますが、これは中間的なというより最終報告までになるかと思いますが、ある程度、短期・中期・長期というようなことで、この先、保育園の話がどのような形で進んでいくかと言うのを見える化したほうが保護者の皆さんに対しても説明になり、わかりやすいのではないかと思います。

一番は、当面概ね3年間と言うのが非常に大変な期間であって、統合となる保育園の子どもたちも通園しているなかで、この会議でもあがっている課題に対する対応、フォローアップをしっかりしていくべきではないかと思いました。

(委員長)

保護者からも懇切な説明がほしいというご意見ですが、スケジュールの中に保育園への課題対応と言うところで保護者への十分な説明対応をということでございます。

G委員からの表現部分については教育長の冒頭のあいさつ「飯山の子ども達をいかに保育していくか。将来を見据えて子どもたちをどう育てるか」だと思っております。

保育園の園長先生からメリット・デメリットを指摘いただきましたが、専門家の視点からあげていただきまして、E委員が言われましたように、デメリットの方が子どもにとって配慮すべきではないかと言うご意見かと思います。

ほかに皆様ご意見ございますか。

(事務局)

G委員のスケジュールに関しての部分ですが、中間提言と言う形になっていますけれども、これについては保育園の検討が終わったところで中間報告を出すということですが、保育園だけを考えると最終的な提言と言うことになります。

これを中間報告として提言いただいて、議会へは提言いただいたものを、全協になるかと思いますが、そこで報告するというイメージになるかと思います。スケジュールの関係は以上でございます。

(教育長)

いずれにしても2つの保育園へ行って、車座になって丁寧に説明したいと思っております。椅子でなく腰を下ろして、じっくり話をして、自分の子どもさんの将来を第一に考えれば、ご理解いただけるというように信じています。親の通園の都合とかありますが、どうしたら、自分の子どもが将来よりよくなるのだろうかと考えていただければ、ご理解いただけるように懇切丁寧に話したいと思っております。

(C委員)

今回ある程度方針が出されましたが、保育園に来ていただいて説明されるのは、何時頃を予定していますか。

(教育長)

できるだけ早めに予定したいと思います。

(事務局)

流れとしますと、この場で統合が決まるのという話ではなく、統合が望ましいという話をいただいて、遅くならないうちに中間提言や計画について、それぞれの保育園等へ説明させていただきたいと思っております。

(C委員)

概ね3年と言う3年が、どのような根拠からでた数字なのかお聞きしたいのですが。

(事務局)

A園の来年の年長児が数名という状況が現実すでに分かってきております。

ただ、来年ということでは保護者の方への説明も済んでいない。来年度の入園申込みも始まっております。それでは5年後でいいのかと言うと、推計値の話になりますが、1園でも1クラスを切ってくるのではないかという状況もあります。スケジュールとしてこのような数字をだしてありますが、保護者との話し合いの中で変更となることもあるかと思いますが、こちらの目標としてという部分でもあります。

それから、B委員からの、A園の改修は統合を見越してだったのかと言う意見につきましては、単に老朽化に伴うものでありましたが、当時からこのような会議を設けていれば、場合によっては、今頃は1園となり、昨年度のような年長児がいないという状況はなかったかもしれません。

(H委員)

保育参観の際に、このような会議があつて園長と会長が出席しているという話をしま

した。現在A園のアンケートを参考に、アンケートを取っているところです。

以前、事務局で説明に来ていただきましたが、保護者のなかには、その後なにもないので、安心して保護者もいるかと思います。また、B園利用者には核家族が多いので、説明会は、子どもを保育園で預かっている時間帯に開催いただけるとありがたいと思います。

(I 委員)

自分の子どもを振り返ってですが、保育園・小学校時代は遊具を譲り合ったり、奪い合ったりして過ごしていました。私の結論は、子どもたちは人数の多い中で育つ方がよいということです。先ほど示していただいたデメリットの「気の合う友達ができにくい」。中学校で一番大きな問題になっているのは「我慢や協調性が育ちにくい」。小中学校で考えると、今、小学校の多くは単級です。中学校は複数の小学校から生徒を迎えますが、どうしても児童数の少ない学校の子が正直なところ全員ではありませんが、物怖じしてしまいます。

以前の4クラスの時は、それぞれの小学校を4クラスに分けて、クラスを組んでいましたが、現在は、不登校や不適応といって、教室に入りにくい子どもたちを一人でも減らすために、気後れしないように、少しでも知っている子どもたちと一緒にいられるようにと、4クラスあっても、少ない学校を2クラスずつとし、それぞれ空いているところへ児童数の多い学校の子ども達をいれて4クラスとしています。

ですので、全てのクラスで全小学校の出身の生徒がいる状況にはありません。証拠はありませんが精神的に安定しています。

1年生から2年生に上がる時にクラス替えをしますが、そこではじめて出身校を考慮せず組めるようになります。それから我慢や協調性と言う折り合いのつけ方ですが、児童数の多い学校出身の子どもたちは、それなりに、揉まれてきていますので、たくましく、悪く言うと、ずうずうしいのですが、児童数が少ない学校の子はどうしても一歩二歩後ろにいます。

これが小学校からなのか、保育園からなのかは難しいですが、デメリットの部分をみて、中学校からすると、教育長の冒頭あいさつにもあったように、人的環境という面もありますが、ある程度、子どもたちが時には喧嘩し、争って、我慢して、滑り台が空くまで待つというような経験をしながら小学校・中学校へあがってくるところで、ある程度人数のいるところで育つのが、それもある程度早い時期からが、子どもにとってプラスなのではないかと思います。それが保育園なのか小学校なのかはわかりませんが。

(委員長)

他に皆さんありますか。

(J 委員)

現状をみて、教育長の「子どもに対する環境」と言う話を聞いて、変化する世の中に対応する子どもを育てるとするのは大事だと思います。ただ、親の子育てに関する環境はどうだろうと、ふと思いました。

東京から移住して10年になります。当時、妻が「保育園はどこだろう」と気にしました。当時、外様保育園がありました。それは一つ、子育てに関する環境だと思います。園が統合でなくなっても、3〜4キロありますが、いずみだい保育園に通うことができました。待機児童ゼロという素晴らしい状況だと思いますが、子どもが減るという言葉がずっと聞いてきました。

C委員が話されたように「子どもが増える」あるいは「維持するにどうしたらよいのか」という視野も一つ二ついれてほしいと思います。

例えば、しろやま保育園の入口を広くする、駐車場を整備するなども必要かと思います。子育てと言うか親に対する環境も考えていただきたいなと思います。

そこにお金をつぎ込むのかどうか、保育士の正規雇用が少ないという状況。

(委員長)

親御さんの子育て環境と言う面でしたが、他にいかがですか。

委員会の方向性を皆様に検討いただきましたが、概ねこの方向でということになるのかどうか、お聞きしたいと思いますが。私としましては、事務局が提示した3年以内を概ねの目途にした統合やむなきという結論が検討委員会としての回答になるかと思いますが、異論等ありましたらお願いします。保育の上で、子どもにハンディが少ない環境作りが親の責任でもあると思いますので、この辺で事務局の提案にご了承いただいたということで、今日の会議を閉めさせていただければと思いますが。

ご異議ございましたら、ご発言をお願いします。

(B 委員)

私としましては「了承します」とは、言い難いです。

子どものためを思えば、ある程度の人数が必要だというのは理想的だと思いますが、子育てする親のことも考えていただきたいと思います。

本当に、保育園の子どもを育てていくのは大変です。

(委員長)

さきほど教育長からお話しありましたように、できるだけ早い時期に車座での話し合いをしていただいて、この場では、賛成できない方がおられることは事実でございますが、委員会全体を眺めた時に、この原案で進めましょうという判断にさせていただきたいと思いますが、ご異論ありますでしょうか。

保護者の皆様には教育長始め事務局の懇切丁寧な説明をお願いしたいと思います。

それでは事務局の原案を大筋認めていただいたということで、閉じさせていただきたいと思います。

(事務局)

ご了承できないということもあるかとおもいますが、次回は本日いただきましたご意見も加え、中間報告案を事務局で提示しまして、それについて、足りない箇所等を審議いただければと思います。

その後、教育長に提言書を提出いただくということでご了承いただきたいと思います。

(委員長)

提言案を事務局から提示いただき、審議の後、私から教育長へ提言させていただきたいと思います。

5 その他

次回開催は、12月20日(水) 18:30 とし、閉会。